

有馬家と梅林寺の400年の歩み

○タイトル：久留米入城400年プレイベント「梅林寺400年」

○日時：令和2年3月1日（日） 10:00～15:00

＊第14回京隈かいわいめぐりと同時開催

○主会場：梅林寺および坂本繁二郎生家

1. 有馬家と梅林寺

有馬家 元和7年（1621）、有馬豊氏（ありま豊ようじ）が丹波国福知山から久留米藩21万石の大名として久留米城に入城。城下町を整備し、現在の久留米市街地の礎を築く。以来、江戸時代を通じて11代250年間にわたり久留米の地を治めた。現在の16代当主の有馬頼央（ありまよりなか）氏は、東京水天宮の宮司を勤める。競馬の有馬記念は当時の日本中央競馬会理事長であり、14代当主であった有馬頼寧（ありまよりやす）氏の功績を称えて名づけられたもの。

梅林寺 有馬家の菩提寺で、有馬豊氏の国替え（くにがえ）に伴い、福知山にあった瑞巖寺（ずいがんじ）を現在地に移した。当初は大龍寺と称したが、1630年以降に梅林寺と改めた。境内にある有馬家霊屋（たまや）5棟は、平成30年12月に国の重要文化財に指定された。

400年 有馬豊氏の久留米入城、そして梅林寺の久留米への移転から、2021年に400年を迎える。機運の醸成を図るためのプレイベントとして、3月1日に「梅林寺400年」を開催。

2. 400年プレイベントの位置づけ

平成29年度以降、（公財）有馬記念館保存会の事業として、久留米城内の有馬記念館で久留米入城400年プレ企画、「大名有馬家家臣団」「有馬入城前夜」と題した展示を継続して取り組んできている。また、有馬家の菩提寺である梅林寺の有馬家霊屋の国重要文化財指定（平成30年12月25日）など、入城400年に向けて機運醸成に努めてきた。

令和元年度は、更なる周知に向けて、有馬家とともに久留米に移り、同じく400年を迎える梅林寺をテーマにストーリーシートを作成するとともに、梅林寺及び、江戸時代には武家屋敷地であった周辺の京町エリアでイベントを開催する。更に（公財）有馬記念館保存会による入城400年ロゴマークの供用開始により、民間でも記念グッズ等の開発が進みつつある。

令和2年度には、入城400年事業の実行委員会を立ち上げ、記念事業やイベント企画を検討していく。また、ポスター・チラシ等によるPR活動を進めるとともに、高良山をテーマに実施予定のシンポジウムにも、入城400年を冠して事業推進する。

令和3年度は、入城400年の年であり、六ツ門図書館展示コーナーや有馬記念館など、市の展示施設で入城400年をテーマとした展示会を開催するとともに、実行委員会の主催による記念式典や市民参加型のイベントを計画していく。

3. 「梅林寺400年」の注目ポイント

国の重要文化財でもある有馬家霊屋は、普段は公開されていないが、イベントに合わせて霊屋（たまや）内部を特別に公開。有馬豊氏の墓や、位牌を納めた廟（びょう）は見ごたえあり。また、境内でのクイズラリーや、梅林寺～坂本繁二郎生家を専門のガイド付きで巡るガイドツアー、坂本繁二郎生家での和菓子作りや笠づくり、浮世絵パネルの前での写真撮影など様々なイベントを展開する。

同日は京町校区により、第14回を迎える京隈かいわいめぐりも同エリアで開催されており、スタンプラリーに参加すると、豚汁やぎんなん飯の接待を受けられるなど、一日楽しめるイベントとなっている。